

事業実施者： 宮城県沖合底びき網漁業協同組合 使用船舶名：第 32 竜丸・第 78 竜丸・第 58 漁栄丸・第 81 龍神丸
第 86 龍神丸・第 21 大林丸・第 31 大林丸
第 3 八興丸・第 58 幸勝丸・第 83 栄久丸
支援期間： 平成24年9月1日～平成27年8月31日 (沖合底びき網漁業)

(取組の内容)

- 集団操業 5隻ずつの2グループに分けて集団操業(代表船設置)、漁場の使い分けを行う。
- 操業日数の短縮 操業日数を震災前の230日から200日に短縮
- 需要に応じた 仲買人等流通関係者と定期的に協議
供給体制の構築 1航海当たりの水揚上限量を設定(スルメイカ等)
- 高鮮度販売・付加価値向上 スルメイカの高鮮度販売の取組、キチジ・ホラアナゴの高付加価値化



(事業の成果)

- 水深200～300m帯と700m以浅の漁場をローテーション操業し、資源を効率的に利用した。
- 操業日数を計画(200日)より18日少ない**182日まで短縮した**。
燃油消費量を震災前**950KL/隻年(計画750KL/隻年)**から**622KL/隻年**まで**削減した**。
- マダラ、スルメイカ、ホラアナゴのスカイトank(大型プラスチック容器、容量1トン)水揚げ、スルメイカの魚艙への積載量の制限(2トン→1.5トン)による高鮮度販売を実施した。その結果、魚類とイカ類を併せた全漁獲物の平均販売単価は震災前の**120円/kg**から**190円/kg**まで**改善された**。